

関西、関東、中部の四半期成長率(推計)

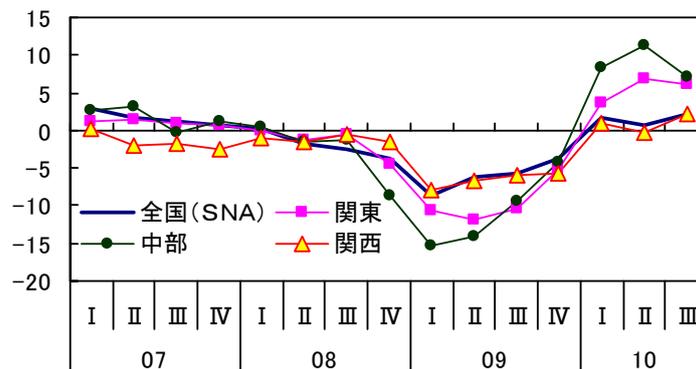
【成長率について】

- 既存の統計を用いて、関西および関東、中部の3地域における四半期成長率（名目・前年比）の推計を行った。これまで地域別の成長率は年度ベースの発表に限られており、四半期の推移は個別の統計から感覚的に掴むしかなかった。
- もちろん、この推計は既存の統計を用いたものであるため、正確性などには限界があり、結果についても厳密な数値の試算を行うことが目的ではない。推計結果の成長率をみる際は、あくまでも数値自体の大きい小さいに着目するのではなく、全国との比較や、地域間での比較、さらに同一地域での時系列変化をみるのが中心となる。

【推計の結果】

- 直近の2010年7～9月の成長率（名目・前年比）は、関西は2.2%増という結果となった。全国が2.3%であるため、ほぼ全国並みの水準として判断できる。リーマンショック以降、関西は全国とほぼ同様の動きとなっており、今四半期もその傾向が続いている。
- 関西と関東、中部との差は、ほぼ前年の落ち込み度合いの差によるものである。関東、中部はリーマンショック後の落ち込みが大きかったため、直近は成長率が高めに出る結果となっている。成長率の構成要素でみると、特に設備投資や、移出入（輸出）ではその傾向が強い。
- 一方、個人消費は前年の落ち込みの差では説明がつかないほど、関西は動きが低調となっている。これについては理由の特定が難しいものの、いま景気を牽引している輸出については、その恩恵が大企業に集中する傾向が強い。その結果、中小企業の回復が遅れていることが消費の弱さにつながっているとみられる。特に、関西景気は中小企業の動向に左右される部分が関東、中部に比べて大きいと、消費の弱さが目立つ結果となっている。
- 関西の全体的な評価としては、「成長率はほぼ全国並み。ただし、中小企業の回復の遅れから消費の弱さが目立つほか、今後は輸出や設備投資の鈍化の影響が他地域よりも早く出てくる懸念があるため、注意が必要」と纏められるものとみられる。

(%) 全国および3地域の四半期GDP推移(名目・前年比)



四半期成長率(名目・前年比)

	2007				2008				2009				2010		
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III
全国(SNA)	2.9	1.7	1.2	0.7	0.1	-1.7	-2.6	-3.7	-8.6	-6.3	-5.8	-3.8	1.8	0.8	2.3
関東	1.2	1.4	1.1	0.8	0.1	-1.3	-0.6	-4.5	-10.6	-12.0	-10.4	-5.2	3.6	6.9	6.2
中部	2.8	3.2	-0.3	1.2	0.3	-1.5	-1.3	-8.6	-15.3	-14.2	-9.5	-4.2	8.3	11.2	7.2
関西	0.3	-1.9	-1.8	-2.6	-1.1	-1.5	-0.4	-1.6	-8.0	-6.7	-6.0	-5.6	1.0	-0.2	2.2

※全国はSNA統計、各地域は推計による数値